

実行する元年

-2008.1.7-

新しい年を迎え、お健やかに新たな決意と希望に充ちた年頭をお過ごしのことと拝察申し上げます。

私事で恐縮ですが、旧年中は「輝けるふるさと創り」の元年として、多くの方々から心温まるご指導を賜りましたこと、心から感謝の誠を申し上げ、御礼をさせていただきます。

戦後右上がりに推移してきた日本社会が少子高齢社会の到来による「世紀の改革」の時代に入りました。担い手不足による雇用システムの変更や食糧供給の変更等々の長期的な変化のほか、ここ数年の急激な改革と行過ぎた競争そして偏った地域振興策から生じた格差は、親子犯罪や苦しい犠牲者を生み、マスコミを通じて連日のように社会不安が駆け巡りました。

イギリス、フランス、北欧諸国が達成した成就社会の乗り切り方を参考にしつつ、日本国の持つ、忘れてはならないものを原点に添え、ゆったりとした社会を創る方法を真剣に考えなければならぬと思います。

子どものころから「家族愛」や「ふるさとを愛する心」と「他人を思いやる心」をしっかりと学んでもらう体制が必要であると思います。私は、この全てのキーワードは命を育む「食」にありと考え、とりわけ「食育」と向かい合ってきました。今年も多くの力を注ぎたいと思っています。

昨年全国で始めて、県議会のガン制圧議員連盟を立ち上げ、早速信州大学勝山院長やガン緊急センター長らと問題点の共有化を図り、国・県・10 広域ごとの連携拠点や地域完結医療実現に踏み出しました。今年も国立がんセンター等との連携を検討して参ります。

長野県政では、12 月県会で「森林づくり県民税」が議決され、今年から納税者（パートなどの 104 万円以下、所得者は除く）の皆様から 500 円の負担をいただき、森・里山の整備、有害鳥獣対策

等の充実に6億8,000万円が使われることとなりました。地球温暖化など、歴史や世界的視野に立って、明日の希望であることも達の教育の場でも、森林の役割、里山の必要性を学ぶために使用するべきです。日本人の心の故郷長野県の里山・森が美しくあって欲しいと願うところです。

また、昨年、議会が生んだ「食と農業・農村振興条例」に基づき、10広域ごとに振興計画ができあがりました。今年は「実行する元年」であります。計画的に、本気になって汗する人のいる地域と、残念にも力が入らず遅れる地域との格差が増すこととなるでしょう。それぞれの地域が人びとの連携で、いい意味で競い合うエネルギーが必要でしょう。

さらに、今後5年間の長野県の目指すべき姿を定めた中期総合計画がスタートします。財政が厳しい時だけに絵に描いた餅にならないように、緻密な実行計画が何より大切ですが、確実に「理念先行」から「現実実行」への移行の時、踏み出す元年となるでしょう。

全ての主役はあくまでも、そこに住む人であります。

今年度、北アルプス山麓・安曇野地域の最大の問題は、地域振興や住民生活の安心のキーとなる松本〜糸魚川地域高規格道路のルート決定と整備区間への格上げです。昨年、国土交通大臣や新潟県とも幾度となく話し合いを重ねました。大臣は「県からルート決定案が提出されれば、早速費用を出す」と明言しました。今年3月には、各ルート(案)が発表され、費用や問題点が一同に明らかにされます。その中で住民の自然的合意が形成されると信じております。ルート選定の基本は、あくまでも救急対応を含めた「生命の問題」が置かれるべきであると考えます。

北アルプス山麓・安曇野は、芸術、文化、スポーツ、健康などの分野にわたり、苦しくても住民の汗と知恵で「輝くふるさと」を磨き上げていかなければならないと思います。

北アルプス山麓ブランドの確立、食育の充実、企業誘致など確実に実を結ばせて参りたく決意するところです。皆様のご健康をお祈りいたしまして、新年のご挨拶といたします。

「見つめなおし、磨く心が 春を呼ぶ」星辰

2008 年 元旦